



芝塔集
下



越前

福井

八句書

柳

あ乃山も神うはやむのま

まろくじりにあふけり

双巴坊

うきうきをまの藤と碎ゆき

指薪

島の鳴心りりー

ソラ

高主

初まて木かくれ乃軍の

韋一

いしりぬ藤系記

友

牙聲

三十一

約あゝに凡情くぬ月の秋 丑
城くあゝに意乞の弁 英二

各録

暇多れ坂やをぬむ 千々足 丑
夕紅の茶やまゝしぬ馬 英二
夕紅の茶やまゝしぬ馬 英二
夕紅の茶やまゝしぬ馬 英二
夕紅の茶やまゝしぬ馬 英二

山吹や一しぬ馬 英二
山吹や一しぬ馬 英二
山吹や一しぬ馬 英二
山吹や一しぬ馬 英二
山吹や一しぬ馬 英二

同新

八句表 雨芹

東坡の雪くは冷 双巴坊

海へきれ新保へはるきくく 友子

柳フキのきく 適之

人あぬきにもまふし命を入 一之

其あへて金の物へ命を 奇京

心とまじりくあ乃きひの積また 其雀

約といまじりきくぬ声 茶束

名録

唯れのねおはへてふふ 一之

花と子との白い乃若う那 適之

まじり子に新乃おろ日傘を 茶束

里の久き新そまけや何き 其雀

既ちや用事へくうらの衛 奇京

歎のまじりかきる水う那 友子

益麻の心亦又あへて 波倚金谷

日ありの空と送れとむ本権 茶束

きり秋やあ魚のむえいり 吾也

あまのこころのしるしは
ついで
舟

まはるにたふらぬ
舟
山
芝仙

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

あまのこころのしるしは
舟

名録

ツツヒ

舟山

舟

芝仙

其夕

舟哉

其洞

有喜

布川

一間

柳里

舟橋

柳里

一間

其洞

傘の木の重さふたふた
有喜

舟代や心くりにあはる
禪乃売 白樹

ふ別と蓋とるまを
穀汁 布川

清くさや志のこくまへ小砂川
手裁

同 南中

八句書 五中

松凡とあつとすれ香や北家の日

お^たしめり酒さうり
外書

喜つたさき行くと目湯く
南中

鳥山の神とふ四五丁
可卜

れろのさきと碎てさのまふ
呂井

軍勢と涙
指原

好くつうすしあくあく月つき
裡系

七巻の事と清く葉と
其水

名原

うさきさきさきさきさきさきさき
あは

ふ萩や栴はな〜高小月たかこづき〜

月つき新あらた萩はなのの高たか小月こづき〜 萩之

秋あき〜や〜萩はなのの高たか小月こづき〜 萩之

年とし〜、明あきらは萩はなのの高たか小月こづき〜 星ほし廿にふた

全ぜん比ひ羅ら〜うね〜ハ〜 旭あす甫ふ

日ひ小こ〜う〜て〜 玉たま卮ひ

〜き〜〜た〜日ひ乃の善よ安あく 有あ隣りん

陸りく〜う〜小こ〜う〜〜 玉たま卮ひ

名録

高たか小こ〜や〜一ひと回かい小こ〜余あまのの善よ安あく 萩はな之

山やま寺てらや月つき〜う〜か〜う〜〜 富とみ以

と食たのの善よ〜う〜や萩はな乃の善よ安あく 早はや友

有あ〜子このの善よ〜う〜萩はな乃の善よ安あく 旭あす前

漕そう力りきやゆと積つみ〜う〜高たか乃の善よ安あく 玉たま卮ひ

有あ〜下した〜すや〜う〜た〜萩はな乃の善よ安あく 有あ隣りん

新、年を川舟に下りて月 暮山

同新

八句書

思直

汲るる身心の味や苦は水

凡そ世に生くるは

ホカシロ

花鳴

取りて神棚に花は清く小

呂柳

つゝるる世の世にハるく

花睡

アツキキ 被るる 始ハ累年 あつれく

芋旭

天當に生るる

松巴

書はらと 移る移る 月の秋

杜家

ねと 律すく 乃は後者

知係

名録

和人の山のをとて 松の柳

号研

ちれハ又 暮る暮る 照るの 松の系

芋旭

月も今も 松乃 松乃 松乃

松巴

四季の心 一 同く 松乃 松乃

知流

水ととていふもや矢川 枕家

九時やもつらたにゆく馬 花勝

幸ふ乃の心もむのまじれ系 たり

たぐひし柳のまゝにたぐひし花

春もつらぬ枝のまゝやあす月 秋風

空よりたあへもつらぬまのまのま 悠司

か佛まゝやまあゝとてはあ 可智

涙しく累へやあ乃枯をむ 化佛

竹芽にまゝあふ 落乃あふ 柳翠

幕もつらぬあゝとていふ山梅 志一

紙後 七回の手

十句表 乙更

そのあ乃小粒もあゝとていふ

園柳あゝとていふあゝとていふ 作戸

新し〜 敬謝のあゝとていふ 其年

旗ハ〜 敬謝のあゝとていふ 一字

あゝはよきまのまぢさうはくも 采也

ふきのまぢさうとせぬ御え 志柳

あゝれと色ふとほむふと 梅里

凡の文織のぢ大乃と 文寛

あゝるあまし月乃八横山 夕嗟

給力に流ふとろの声 欣馬

名録

羽の流れおぢもやうふ月 投票場

あゝはとにやさんてぬ川 其年

あゝととま産め流し星月お 夕嗟

あゝととまあをえと流えと 志柳

あゝや高乃中あゝ流まのち 采也

あゝふととれぬととる月 欣馬

あゝれの相かくあゝと秋と 懶屋

あゝりりくとまきととあゝ小とれ 儿月

あゝととととととととと 梅里

庭にまきくまをきくまの梅の如く 文寛

冷白乃中をきくまの梅の如く 宇六

一にきくまの梅の如く 宇六

月の影をきくまの梅の如く 一字

同新

晴くまをきくまの梅の如く 宇桂

雲くまをきくまの梅の如く 可吟

むらさき地をきくまの梅の如く 云云

考をきくまの梅の如く 吐月

そ月をかきくまの梅の如く 梅里

同新

この物

梅伝

竹の葉をきくまの梅の如く

竹の葉をきくまの梅の如く 之文

桂男とをきくまの梅の如く 里寛

書 五 行 錄

一 之 交

同 極 古

八 句 表 盧 丈

一 行 錄

來 雨

可 出

如 梅

一 行 錄

和 暖

一 行 錄

里 和

一 行 錄

素 白

一 行 錄

波 靜

五 行 錄

一 行 錄

系 白

蓮 一 行 錄

如 梅

月 一 行 錄

龜 六

和 花

Handwritten cursive characters

里 花

Handwritten cursive characters

可 来

Handwritten cursive characters

来 雨

Handwritten cursive characters

同

見

八 句 来

Handwritten cursive characters

花 花

Handwritten cursive characters

Multiple lines of handwritten cursive characters on the left page, including characters like 如, 可, 花, 里, 和.

六 句 来

同

見

卯松居

夏ふやあけりた却く木の下葉

あけ強涼しは通あ乃曙 友和坊

佐原もあけ少強揚の風始あす 小浮

あけしうたあを流し流りけ 二峰

月新ハるるあけしりく 卯如

石守傳く園乃かき若

大なる名録

夏の月や定まらるるあけし 友和坊

山吹の新いんあけしあけ 小浮

同 名木野

八句表 卯如

子親やあけあけあけの蜂一ぬ

あけしあけしに子籠あけあけ 二真

夏深乃あけあけあけあけあけ 里桂

あけあけあけあけあけあけあけ 卯如

海 流 の 作 成 一 月 之 形 心 之
其 下 一 月 之 形 不 識
新 年 の 強 々 一 月 之 形 友 之
強 々 一 月 之 形 東 明

名 録

亦 植 一 月 之 形 東 明 一 無
子 之 形 一 月 之 形 友 之
二 三 日 月 之 形 東 明 和

其 仲 一 月 之 形 東 明 以 之
子 之 形 一 月 之 形 不 識
源 人 の 形 一 月 之 形 東 明
強 々 の 形 一 月 之 形 里 桂

同 形 録

八 句 表

亭 例

其 深 乃 形 一 月 之 形 東 明
彼 深 乃 形 一 月 之 形 東 明 文 中

いゝくの母、ほろり孝なり
新糸

むりしちるにすししふ部坂
梅江

かのうゝ種ゆはる雨えれ
圭河

森尾ととれハ雨りえの月
美陵

秋乃田寸んすえふ馬と陸
小唄

名録

風や野々あれ果て枝一本
東榎坊

暑くやしく島乃ゆり水
圭河

くさくさゆきや 雪のふり 家ハ枯ゆり 里川

同 三条

漣ノむら乃浮冷や 雪のふり 志 乙 産志

同 野中玄

八句表 兒啓

翁日多る 軒ノ雪のふり

梅ノ和くくと 神乃流 東板橋

舟まハこころの人と 呼吸 仁城坊

いゝの母は 孝乃 新系

むら かに 梅七

かのうの 種のはら 圭河

春乃と 月 兼後

秋乃田 水 小川

各録

風や 東板橋

暑月や 圭河

蓮 咲く 安楽果の益 春くれ 朝我

水 々々 たり けり 蓮の 花 源一 化城坊

花 の 色 や 控 針 り くる 繩 なる 入 軒 井 梅 士

糸 々々 けり 蓮の 花 依 善 北 明

柳 々々 けり 厚 に 浪 田 の 花 くれ 竹 里

糸 々々 や 糸 の 端 くれ 小 小 ね 糸 二 篇

糸 々々 や 糸 の 端 くれ 小 小 ね 糸 二 篇

凡 々々 けり ね けり 糸 糸 車 備 白 秋

凡 々々 けり ね けり 糸 糸 車 備 白 秋

梅 の 大 や 糸 乃 丈 端 けり 糸 糸 凌

月 言

八 句 表 松 良

茅 智 乃 けり 糸 糸 糸 糸 糸 糸

山 々々 けり 糸 糸 の 糸 糸 糸 糸 糸 糸

糸 々々 けり 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

糸 々々 けり 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

神 樂 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

梅のたやろろ智乃丈婦く分

中修

系後

月

吉田

八句表

松良

茅智乃わろろ家いふいむの音

山ろろい今まのあけ年の 系月

雨ろろい乃乃節句をうて 東里

傳えろろ年とわろろ年 菊全

河神連とすろろいろろい 河

種考や水るのそら夕日西 松云 東里

月

松櫓

八句表

東海

旭考やそら八句日のあらし

あらしのそらとそら

藤子

あらしのそら中スキワのそら

信保

あらしのそら入る櫓の歯

あらしのそら舞のそら

櫓のそらあらしのそら

櫓のそらあらしのそら

あらしのそらあらしのそら

月

松新

八句表

儿右

海考やの貝のそら

あらしのそら酒のそら 工 門 文好

あらしのそら司のそら 工 里

橋 へ び ち り の ち び 引 へ

橋 へ び ち り の ち び 引 へ 甲 辰 辰 辰

橋 へ び ち り の ち び 引 へ 辰 辰 辰 辰

同

世新

八句表

儿右

漢 字 や ー の 貝 へ 市 へ

糸 ^工 乃 酒 尔 着 運 へ 門 文 好

山 へ ち り の ち び 引 へ 辰 辰 辰 辰 里 辰

海邊のふきくわい 和考

新和もきくわい 和考

ついでに 和考

用情の面 和考

島小田 和考

名録

言さし 文好

言さし 一茶

島門も 和考

和考 里山

和考 和考

和考 二全

和考 菊仙

和考 和考

和考 和考

同

村松

松坂おとりのちのちの年 共話

其二

青史

行とくさるを路しつる翁森森

卒あちちうふ何年の松の翁 文明

まはし—とん—の乃まのちのち 保泉

まのちのちのちのちのちのちのち 文亀

母のゆりまふも子のちのちのち 一貫

生く流りまのちのちのちのちのち 治路

世の中ハ多れと海の日あれや 如流

田はくく一層の今あらしを声

其二

琴而

秋月やあ子まうたにまのちのち 高島

月のあらしのちのちのちのち 蘭里

春のちのちのちのちのちのちのち 桃序

ちや文しあけ大なる影 柳糸

ゆんくと千鳥城の噂はうまのちのち 不保

各條

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

五送

各條

同

仁贊保院

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

柳の葉も芥とツリく若了雅 進尺

琴巻やゆき下した流ハこころ 苔月

高き山一ふきくさくさくさくさく 里勝

ふくた僕うた花のねんや菊の曲 瓜苔

かししく咲きたりふきくさくさく 基柳

くさくさくさくさくさくさくさく 北松

松の葉やすきくさくさくさくさく 板山

ゆきくさくさくさくさくさくさく 柳天

東都

名録

椎の葉やゆきくさくさくさくさく 去二坊

流の葉やゆきくさくさくさくさく 鳥林

松の葉やゆきくさくさくさくさく 塘水

芥子葉やゆきくさくさくさくさく 里鶯

葉の葉やゆきくさくさくさくさく 瓢花

葉の葉やゆきくさくさくさくさく 文季

同

六句書

再見坊

葉のむやむや一色乃あきくふ

月あきのねを産むぬくと書 膳店

子當山日永乃あきくにゆくと書 楚石坊

あれくちを産むかんと書 常山

君うらの雪中の新乃あきくふに 其休

雪を産むかんと書 菊免

同

六句書

惠下

あはきくちを産むかんと書

水と雪の雪く 翠月を 赤連

高しよきを産むかんと書 柳石坊

葉のむやむや一色乃あきくふ 由亀

雪のむやむや一色乃あきくふ 有松

田のむやむや一色乃あきくふ 雨江

新乃也菊うをとてく一

之位の遠くをのりる石水

翠峯乃一ぬ... 柳亭

手巻う先く... 兔山

吹折く... 兔山

月... 文々

月

林月乃... 楚石

三徳

小原

六句表

兔園

田... 新

早... 里水

草... 三

高... 板友

傳... 都月

... 龜的

名事や里々もあつハハハハ

あつハハハハハハハハハハ 河奈

折 捨ハハハハハハハハハハ 巨井

しハハハハハハハハハハ 鯉川

樓 ともあハハハハハハハハハハ 兔薮

厚ハハハハハハハハハハ 林鳥

名録

折 ともあハハハハハハハハハハ 鯉二

月 のハハハハハハハハハハ 里水

里 ともあハハハハハハハハハハ 都月

山 ともあハハハハハハハハハハ 梅友

ま ともあハハハハハハハハハハ 豊的

あ のハハハハハハハハハハ 若奇

ま のハハハハハハハハハハ 巨井

